



教会でもORIGAMI活動 NY折り紙ボランティアーズ

これまでシニアホームを中心に活動を続けてきた「NY折り紙ボランティアーズ」が、4月14日にブルックリンのセント・ルイス・ローレルズ教会(ホワイト・プレインズ・ロード172

番地)にて、地域住民と折り紙を通しての魅力をもちろんなこと、手先を使うことで脳の活性化にもつながるため、いわゆる「脳トレ」として注目されており、同教会でもシニアの参加者たちがそれぞれに折り紙を楽しんでいる。その後、参加者とボランティアーズメンバーが教会内で食事を共にした。

今後はイーストチェスターだけでなく、ハリソンにも活動範囲を広げ、今回のような地域に根ざしたかたちで折り紙の活動を広げて、必要とされる人のもとへ届けていきたいと、参加したボランティアーズメンバーは語る。

また、5月に開催されるジャパンパレード2026にも「NY折り紙ボランティアーズ」のメンバー総勢57名で参加する予定。

シニアに 日本文化と 脳トレ届け

折紙は、日本の文化としての魅力はもちろんなこと、手先を使うことで脳の活性化にもつながるため、いわゆる「脳トレ」として注目されており、同教会でもシニアの参加者たちがそれぞれに折り紙を楽しんでいる。その後、参加者とボランティアーズメンバーが教会内で食事を共にした。



プリンス頓日本語学校 入園式と入学式

プリンス頓日本語学校(朽木史昌文部科学省派遣校長)は4月12日、春の柔らかな光が降り注ぎ、澄み渡る青空の下、令和8年度第47回入園式・入学式を執り行った。構内の桜が満開の花を咲かせて新入生を迎え入れる中、本年度は幼稚園部12名、小学部24名、中等部19名の計55名が、期

待と緊張を胸に晴れの日を迎えた。第一部、小学部および高等部の入学式は、日米両国の国歌演奏で厳かに幕を開けた。式辞では、朽木史昌校長、市原理瑠日本語継承部部長に続き、小野雅之理事長、吉田和加子父母会会長から温かな祝辞が贈られた。

朽木校長は真新しい門出に立つ新入生へ向けて、「ご入学おめでとうございませう」と心からの歓迎の言葉を述べるとともに、これからの学校生活の指針として、「諦めずに学び続けること」「違いを認め思いやり」の心をもつこと、「ことごと」大切にしたい2つの約束を語りかけた。

引き続き、年長組の子どもたちから歓迎のメッセージや手遊び歌が贈られ、会場は子どもたちの歌声と笑顔で春の日の差し込み、明るく温かい雰囲気になりました。新たな園生活の第一歩が始まりました。

つ呼ばれると、子どもたちは少し恥ずかしそうにならながらも、「はい!」と一生懸命に応じた。緊張で大きな返事は難しい場面も見られたが、保護者や教職員は温かいまなざしで見守っていた。

最後に、年長組の子どもたちから歓迎のメッセージや手遊び歌が贈られ、会場は子どもたちの歌声と笑顔で春の日の差し込み、明るく温かい雰囲気になりました。新たな園生活の第一歩が始まりました。

帰国生の強みは、異文化体験と社会的マインド。1体験から得た多面的・多角的な視点であるなど、よく言われます。これらの能力は、「非認知能力」とも呼ばれ、主体性や相手を取りまくる力、主体的な態度など、子どもたちが将来、社会を生きていく上で大切なものであるとされています。

4月22日はEarth Day。地球のことを考える日。こどもへの幼稚園5歳児クラスでは、3R (Reduce, Reuse, Recycle) について学んだ。子ども達が絵を描

いたり製作で使用する紙が出てくる。保育者が「紙は何かからできているの?」と聞き、子ども達は「木」と答えた。保育者は「木は外の土から生えてくる。では、その土の中に紙を埋めたらどうなるでしょう?」子ども達「また、木になる!」と答えた。

リサイクルとは、使い終わった物を資源として再利用すること。おにぎりを包んでいたラップ、サンドイッチを包んでいたアルミホイル、デザートに入っていたりんごの皮など、「ゴミ」として捨てる物を資源として再利用することができると、この実験に取り組んだ。「アルミはおかねになる!」とユニークな回答もあった。

帰国生の強みは、異文化体験と社会的マインド。1体験から得た多面的・多角的な視点であるなど、よく言われます。これらの能力は、「非認知能力」とも呼ばれ、主体性や相手を取りまくる力、主体的な態度など、子どもたちが将来、社会を生きていく上で大切なものであるとされています。

一方で、これは、アイデンティティや自己肯定感の基礎をなしているとも言われています。海外で接した日本の子どもたちの様子を見てみると、子どもたち同士の間で「相手をやる気」にさせることはインセンティブを誘発することば「インセンティブ」がクラスメイトとの話の中に入っていることに気づかされることも多々あったように記憶しています。「○○さんは、この問題について、こういう風に考えていてすごいと思います!」このように、クラスメイトと接するときに子どもたちは自分にはない強みを持つ、リストアップすべき存在として認知し、良い印象をもって相手に相対しているのですね。こうした行動は、本来大人社会の中で、先輩・上司が後輩・部下に対するときに与えられる上級な技術であり、学校内でも教師が子どもと接するときに使う成熟度の高いスキルです。きっと保護者のみなさまが、家庭内で様々な体験を積み重ねていく過程で、しっかりと自分で考えさせながら、このようなことばかけを、普段わが子になさっているからこその出てくる発言なのかなと思います。

期待やリスペクトを受けたい子どもたちは、それが自然に自信、すなわち自己肯定感に代わり、期待に応えようとする気持ちの変化となり、その結果が行動や学習成果にあらわれ始めます。もちろん、米国で、教師

インセンティブを誘発する行動と心理

公益財団法人 海外子女教育振興財団 (JOES)
田村穰 教育アドバイザー



も、そのカギは隠されていると思います。これらもまた、子どもたちのインセンティブとなります。学習集団全体が、そのような雰囲気になると相乗効果は歴然となり、正のスパイラルを産みだして続きます。私の拙い経験でも、日米を問わず、上手にしている学校や学年・学級は間違いなく、相手をリスペクトしながら、ともに学んでいこうという空気感に満たされています。

心理学では、前者の子どもの発言を「ビッグマリオン効果」、期待に応える力を「ホーン効果」、教師などの発言を「インセンティブ効果」といいます。専門的な言葉はさておき、インセンティブを誘発する効果を、普段から身近にいる私たちが大人が意識して醸成していくか。あるいは、思春期近くになり、ある程度アイデンティティが確立する時期に差し掛かれば、そういう環境を子どもたちに適切に提供できるかなどが、大切になってくるのではないのでしょうか。

の方も当然考えていて、自分の担当するクラスや集団の子どもたち個々の長所を、直接的な自分の言葉ではなく、担任や保護者の声として伝えていきます。もちろん事実に基づいたことばです。また、サマースクールやアフタースクールプログラム、演劇やスポーツなどチームで一つのものを作っていく過程の中に

本欄への相談は
●公益財団法人 海外子女教育振興財団 (JOES)
www.joes.or.jp
【教育相談】
Eメール sodanjigyo@joes.or.jp

お子さんの帰国準備の第一歩は、JOESの教育相談

① 帰国まであと1年...

JOESの教育相談を受けてみよう!

子どもの帰国後の学校はどうしよう?

② 教育相談申し込み

予約フォームに必要事項と相談内容を入力。

Zoom相談しよう

③ 相談日確定

事務局から相談日確定の連絡。

決定!

④ Zoomで相談

そうなんだ!なるほど!

⑤ 帰国の準備!

一時帰国の時にいっつか学校見学にいこう!

(公財) 海外子女教育振興財団 教育相談 予約受付中! 専門の教育アドバイザーが個別にアドバイスいたします

週刊NY生活 教育なんでも相談室